



hida

報

ひだ

町木



第7号

肥田町 委員会 発行
郷づくり 9.11.1 発行

「町民全員参加の ふるさと夏まつり」



去る八月十六日開催の当町の大型イベントであります「ふるさと夏まつり」も、町民の皆様、各関係諸団体の方々の御協力です。無事終了させていただきました。有難うございました。

今年、例年のスタイルを一部変更し、外部よりゲストを一切迎えず町民参加の「素人演芸会」を計画しましたところ、老若男女多数の御参加をいただき、皆様に楽しんでもらえたことと思います。福引では、子供達にステージにて参加してもらい、どの子供達も輝いていました。夏休みの思い出のページになったかと思えます。

今年、土曜日・お盆という開催日でもあり多くの御参加をいただき、夏まつりを盛り上げていただけただ事に感謝しております。

今後共、より一層の御協力をお願いしつつ夏まつりのお礼と所感にさせていただきます。

文教部長 成宮 克美

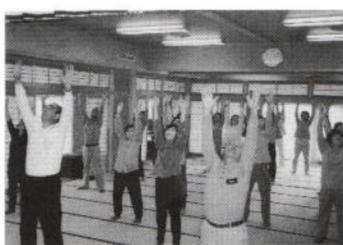
中国健康体操の集い

自治会福祉部

肥田町自治会では、身近な問題を、身近なところから取り組んでいます。今回は「健康」をとりあげました。一般的に西洋の体操が体を鍛えることがねらいに、今回の中国健康体操は、医療的なねらいと、健康づくりに重きをおいて、年令をこえて、誰にでも手軽に出来る、ゆつくりとした体操で、皆さんが頭も体も柔らかく、いつも元気であつてほしい願いから企画しました。

この体操は、中国古来の太極拳の武道的な要素と、氣功の調整術を組み合わせた医療保健体操で、今日、日本でも広く愛好者が増えています。

今回も、町内で広くご参加を募りましたところ、40名をこえる参加をいただき、9月27日スタート、10月4日、10月11日と、毎回公民館満杯、熱気に溢れ、和氣あいにあつた中で、皆さん初めての体操に取り組まれました。体操をして、お腹の調子が上々になった。ぐつぐつ眠れる様になつた。気分が快適と、嬉しい感想もいたしております。



また続けてほしいとのご要望も多く、更に健康な生活づくりに、お役に立てたいと考えています。

支え合う福祉の郷づくり

社会福祉需要の増大多様化する中で、福祉協会の重要な活動目標である地域福祉の推進に向け、在宅福祉を推進するための事業として、介護講座を実施して既に四年目を迎えます。

御承知の様に、人生八十年時代と言われ、永い日本の歴史の中で、誰しも経験しない高令化が猛スピードで到来し、加えて家庭様相の変化で、独居老人、老夫婦世帯が増加し、更には一般介護の長期化等、小規模家庭で弱る扶養、介護の弱体化傾向の今日、社会が求めているのは、小地域福祉の推進、「地域のケアシステム」づくりであります。即ち、遠い親戚より近い他人という諺のように、地域の身近な人達で支え合い、助け合える福祉の町づくりなのです。

幸い本年度肥田町自治会では、福祉部を新設し、超高令化に備えて誰しもが安心して暮せる在宅福祉の推進を積極的に進めて頂き、稲枝地区連合自治会のトップで介護講座を実施し、町内多数の受講者が介護の基本的知識を身につけて下さった事は、町住民にとって最高の幸せであり大変心強い事です。自治会関係各位に心より敬意を表します。

何とぞこの福祉講座の成果を踏まえて更に福祉の輪が広がり、「住んで居て良かった」「長生きして良かった」と言える潤いのある町であつてほしいものです。

先にも述べました通り、めまぐるしく激変する社会の中で、福祉は授かるものでなく、皆で手を携えて創る、まさに心の福祉なのです。

そのためには、住民お一人お一人が時代の変化と、福祉に関心と理解を高めて頂き、互いにふれあいを深め、在宅福祉の推進に、すすんで御参加、御協力賜り、私達の掛け替えのない肥田の里に、大きな福祉の実が結実することを衷心より念じております。

稲枝地区社協副会長 綿野 栄三

郷づくり伝承事業「稲刈り」

子供会会長 一元持 清

去る8月31日、山岸長兵衛氏宅裏の水田において、小学生が稲刈りを行いました。春にみんなで植えた苗の稲を刈ることができ、また、夏休み最後の日であったことが、記憶に残ることだと思えます。

初めに、稲の持ち方と鎌の使い方を教えてもらい、次に、刈った稲の束ね方を教えてもらいました。



子供たちは、恐る恐る稲刈りにかかりましたが、慣れると、なんとかできたようです。

田植え、稲刈りを体験できた子供たちは、稲作作業をどう感じたのでしょうか。

田植えから稲刈りまで、お世話になった一元持三氏にお礼申し上げます。

「はじめての稲刈り」

3年 一元持 千秋

はじめて、いねかりを、おじいちゃんに教えてもらいました。かまをもつのははじめてだったのが楽しかったです。いねも、さいしよはうまくかれないけど、だんだんかっているうちに、一回でかれるようになりました。おじいちゃんたちは、たいへんだつたんだなあと思いました。夏休みさいごのいい思い出になりました。

3年 一元持 佳那子

子供会で稲刈りがありました。かまを持つてかりました。ふだんかまを持つことがないので、上手にされるかなと思いました。お母さんに「手を切らないように」と言われたので、手につきをつけてかりました。はじめは、上手にきれなかっただけで、なれてくるとだんだん上手にきれなりました。

そして、くくり方もなりました。むずかしくてくくれませんでした。でも、はじめてすることばかりだったので、楽しかったです。

緑風

「ふるさと」は遠きにありて思ふもの」室生犀星の有名な句がありすが、小学校から高校卒業まで肥田を皮切りに、社会人になつてから勤務の都合で、福岡、大阪、

京都、東京、そして現在の天津の瀬田と移り住んで「住めば都」の言葉どおりそれぞれの土地で、人々とふれあい、生活の風土になじんできましたが、今、こうして振り返つてみますと、やはり多感な少年時代を過ごした肥田での日々が印象深く甦つて来ます。西町・東町・登町の美しい街並み、祭囃（まつばやし）をはじめとした四季折々の風情。そして、今も年に四、五回、墓掃除やお参りで肥田を訪れる時「誠にちゃんやないか」と声をかけて下さる人々の

気持のあたたかさに触れるとやはり「肥田があつて、現在の自分がある」のだという想いがこみ上げ、改めて強い感慨を覚えます。先日、肥田の知人に逢つた時、「肥田は他の在所に比べて年寄りが多い」という話を聞きま

した。周知の通り、高齢化・高齢者増の現象は、様々な波や渦となつて、私達を取り巻いて来ています。私自身も、今年はまだま地元の自治会の活動に関わつておりますが、肥田が直面しているこの大きな波への、対応策に取り組んでおられる自治会をはじめ関係者の方々のご尽力は大変なものだと、推察致します。今からは「自分が、それぞれの地域に

対して何で役に立つ」かが問われる時代が、やつて来ます。又、地域と地域の連携も大切

です。微力な私ですが、何かお役に立つことがあればとの思いが募る今日この頃です。

大津市瀬田在住 山岸 誠一

【福寿会奉仕作業行われる】



8月、恒例の福寿会員の皆さんによる夏の奉仕作業が行われました。神社、地藏堂の清掃に引続き、肥田ロマン遊歩道花壇の草刈りに尊い汗を流し見違えるように美化されました。

緑豊かな町の環境を今後とも町民の大切な財産として、みんなの力で保全し続けたいものです。ご苦労さまでした。

◎彦根市史編纂室の聞き取り調査について



八月二十九日、新彦根市史・民俗編の編纂のため市史編纂室長、民俗芸能の権威者山路先生他五名の調査員の方々が御見えになり、公民館において町史に書かれた肥田の昔の生活習慣、年中行事等について詳しく調査されました。町内より高令者の方々に御協力を頂きました。数年後発刊される新彦根市史の一頁に残される事と思ひます。



お誕生おめでとう

なまえ 生年月日 父の名
巧ちゃん 平成9・8・26 元持光正さん
沙利ちゃん 9・9・2 宮川 誠さん

「伝承あそび」でたのしく



今年もこの夏、郷づくり伝承部では、子供たちに「ちえの輪」づくりを中心に、手づくりおもちゃを作ったり、「すみ流し」を応用した遊びをしました。ちえの輪あそびでは、根気よく試行錯誤する中

で、やつとはずした喜びや、その製作のくふう、原理の発見に驚き、子どもなりに、息づまる挑戦にも楽しい時間をすごしました。幼児期より発達に応じて、なるべく自分自ら作つたおもちゃで、遊べるような能力と習慣を養つておいてやることは、たいへん重要なことです。

「書を学び 豊かな心を」郷づくり伝承部



昨年引続き、今年も夏休みに、郷づくり教養文化部長、成宮先生の指導で、子供硬筆習字教室が開かれた。この期間は子供たちも集中した練習で、作品は、秋の町民文化祭に出展されることになっていきます。

◎「月下美人」見事に花ひらく



よる開いて数時間ではしほむと云われる珍しい月下美人（サボテンの花）の大輪が八月二日より数日間、大村嘉孝氏宅に見事に開花しました。来年の開花時には皆様共々観賞させて頂きたいものです。

「あじさい」文庫に参加

中山 邦子

いつも楽しいお話を有難うございます。お陰様で、他ではあまり観る機会のない格別な紙芝居をみせていただいたり、年齢の低い子にも理解出来るものから、少し高度なものまで、又季節感の有るものを盛り込んで下さつたり、細かい御配慮を本当にうれしく拝見させて頂いて居ります。子供達もそれが見かけで、大の本好きになりました。親が選ぶ本と子供達が選ぶ本も又違う事にも気づかされ、本との出会いというのは、おもしろいものだなあと、つくづく感じさせられる今日この頃でございます。

これからも、楽しい本とのさまざまな出会いを子供達は楽しみにしていることと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

薩摩はるみ

いつも、楽しいお話がありがとうございます。家で遊んでいる子どもにとつてお話し会は、みんなと一緒に話しが聞ける楽しさと、おじいちゃん先生からのいつもと違ったお話しが聞ける楽しさと、いろんな思いが詰まっています。

普段、なかなか本を読んであげられない我が家にとつて、本との新しい出会いの場ができたこと喜んでいきます。

青木先生、いつまでも子どもたちのために私たち親のために本を読んで下さい。

本と子供 薩摩由里子

幼児期にひざの上に子供を乗せ、本を読んであげなかつたので、上の子は今でも文章を理解するのが苦手です。それをふまえての下の子ですが、やはり本を読んであげる心のゆとりがないダメな母親です。それでも、子供文庫に行くようになってからは、本を借りてくるので読んであげるようになりました。借りてくる本も、時には表紙に魅せられてかりてくる時もありま